

『青年會月報』にみる

神戸女學院

——一八八八年～一八八九年——

山 口 光 朔（編）

解 説

『青年會月報』というのは、一八八八年（明治二十一年）一〇月に神戸基督教徒青年会（神戸YMCA）によって同会の機関誌として創刊された月刊誌である。

現存している実物は、神戸YMCAの百年史編纂のために収集された数多くの史料のなかから発見されたもので、第二号（一八八八年一月一日）、第三号（一八八八年二月一日）、第四号（一八八九年一月一日）と第六号（一八八九年三月一日）の四部しかなく、第一号と第五号が欠けている。

だが、この史料が注目に価するのは、ただたんに当時の神戸YMCAの活動に関する史料であるにとどまらず、神戸のプロテスタント・キリスト教一般の動向を知るための貴重な史料であるとともに、同誌自体があえて神戸YMCAの機関誌だけではなくて、全国的なキリスト教界誌たることを目ざして創刊されたことであろう。

内容的には、神戸YMCA関係の記事以外に教界一般の動向を伝えようとする努力がなされており、明治初年に神戸において発行されたわが

国最初のキリスト教関係の定期刊行物として知られている『七一雜報』に似るか似たような雑誌であったということであろう。

小冊子ながらも、体裁は、論説・YMCA記事・雜報・海外通信・雜録・文苑・演説記録・禁酒会記事・寄書・広告などを整えており、定価は一部二銭、発行兼印刷人は「飯田勇記」、編集人は「木山金太郎」、発行所は「神戸基督教徒青年會事務所」、発売所は「神戸福音社」、印刷所は「（大阪）福音社」となっている。

ここでは、『青年會月報』に出てくる「神戸英和女學校」関係の記事を集めて紹介することにした。いうまでもなく、「神戸英和女學校」とは神戸女學院のことである。当時の神戸女學院の事情を知るために役立てば幸いである。

同誌に散見しうる当時の神戸のキリスト教界一般に関する記事は、すでに『神戸女學院大學論集』第三〇巻第三号（一九八四年三月）所収の山口光朔・田中昭子「明治中期の神戸キリスト教界の史料的研究——一八八六年～一八九三年——」で紹介したので、参照せられたい。

なお、本史料の収集と紹介に際しては、田中昭子姉（神戸YMCA総合研究所研究員）のご協力を得た。このことを付記して、感謝の意を表しておきたい。

〔史料紹介〕

一八八八年（明治二十一年）十一月一日発行第二号

禁酒會錄事

●神戸婦人禁酒會 同會と去月役員を改撰して會長ふハ英和女學校教員増田鶴姉副會長ふハ神戸教會の飯田クス姉多聞教會の宅原ヤエ姉兵庫教會の村上クラ姉書記ふハ松宮ハル姉當選承諾在たる由

●去月十四日ハ万国婦人禁酒會々頭の勸告ふ從がひ神戸にても女子手藝學校の樓上ホて午后一時半より同會の集りあり司會者ハ會長増田嬢ホて飯田夫人の聖書朗讀及び祈禱長田夫人の演説(其大意ハ吾禁酒會ハ衰微して何をふし居るやらわからぬとの評あれ共決して初めより立派ふものゝ出來る筈ふく今日の如き幼稚の時代ふハ活潑な働き手もふき筈ふり二三十年の後ふハ必ず目ざましき働きある可し失望するふかれ會員諸君等ハ働きのふきを憂ふる勿れレプタ二つを投げ入れたる寡婦の精神を以て勵む可しふどもて今日同會の不振を見て失望せる者ふハ適當ふる慰撫の辭ふりしと思ふ)、雨夜嬢のウキラルド嬢が勸告の大意、箕田嬢の文章、川本嬢の酒の腦の蛋白質ふ與ふる變化を鶏卵の蛋白質ホての試験、及びブラオン嬢の演説(其大意ハ太陽が二十四時間ふ世界を一週して地球上何處でも其目の達かぬ所なきが如く神は各人の祈禱を尽く聞き給ふ此飲酒と申す大惡鬼を刎け此大敵を亡さん爲めふハ恐らくハ禁酒會の総ての會員ハ祈り居るならん何ぞ神が聞き給ふとあらんや併し祈つた丈でハいかぬ之と共に働らかねばふらぬ君等の内小供のある人ハ其小供ふ酒の害を話されたか小供をして酒を恐るゝ様にするハ大なる働きです又君等ハ幾度酒を好む人ふ禁酒する様勸められたか幾度程多忙ふるとき其忙しさふ關らず禁酒會ふ出席したか幾度程禁酒會の賤しめられた時ふ之を辨護したか又幾度程酒の爲めに苦しんで居る値の爲めふ祈つたか考へて見よ私共熱心ふ求むるなら働く可き方法を示さる可し云々と大ふ會員を勵

まされたり) などありて午後二時四十分頃散會されたり會する者ハ婦人のみふして三百餘名實ふ盛會ふりき此日女學校生徒の撰みし唱歌を謠へれたり即ち左ふ載す

SHEAVES. 66656665. B.

一

いかふみるや	われらのとも
世をほろぼす	てきのわざ
ふるひおこれ	みかたのもの
うちをらへや	さけのがい
いさみゆけ	いさみゆけ

たれかてきせんぎのいくさ

二

くだけこぼて	さけのうつわ
やがてつもの	かバねをバ
わきめふらぬ	ふみこへゆき
うてやつけや	てきのふか

(をりかへし)

三

あるゝ魔王の	ちからひしぎ
すくひいたぜ	そのとりこ
よるこびみよ	われらのとも
かぜふあびく	自由のはた

(をりかへし)

四

ひくふひくな
はやうきたり
いとふなかれ
たちまちきかん
（をりかへし）
みかたのもの
てきのあし
よのあざけり
かちのうた

《一二月一日発行第三号》

雑報

●神戸英和女學校 ハ女學振興と共に益隆盛小赴き目下百七十余名の生徒あるが此多の姉妹方を孰も高尚なる婦人の品格を養ひ大和男子の好伴侶日本婦人の好模範たるの志ありといへば我國小多の淑女の現出するハ近小あるべきかそハ兎も角も全校の教授法教授課目助教の採用法等ハ今一層改良を行はれたしと思はるゝ廉なき小あらずと或人ハ語れり

《一二月一日発行第三号》

文苑

●編者申す左の二文章ハ神戸英和女學校教員三嶋彊氏が全校生徒の作文中より殊小秀逸と思はるゝ分を蒐めて送られたる者の中より選抜したるものふり次号にも全様續々掲載致す積り故看官の愛讀を乞ふ

●未だあわざる人小學藝の教授を請ふの文

神戸英和女學校本科四年生竹内ふみ

突然拙筆を以て賤文を呈し御繁務の時を妨げ敢て御傾聴を煩はし申候陳

ハ私事兼て先生の御高名を友人より承り及び且御卓越の學術御論文ふど時々紙上にて拜するを得常小先生を敬慕致し候も残念なるかふ未だ龍光を拜するの幸榮を得ず只紙上にて折々御教示を蒙るのみふてハ迎も私の愚を去る小足らず誠小不満小存居申候私常小父母小はかり斷然奮て笈を負ひ先生の門小入るの幸日を得度存候へども先生御詳知の如く當地ハ山間の僻地人民文學の必用を知らず只稍く書ハ姓名を記する小足り文ハ受取諸券位小止め未だ嘗て進んで學理を講じ萬物の性を究めて人智を研かんとする者乏しく稀れ小一二の有志者ありて或ハ經書を講じ史傳を讀むものあれば不幸小も病魔の犯す處とふり終は黄泉の客とある有様小て爲小學問ハ尙ほ生命の惡鬼ふり敵ふりと考へ或ハ書を燒きて以て惡鬼を攘ひたりと思ふ如き狀況小て實小山民の頑固ふる女子なる私すら殘慨の至り小堪へざる次第小御座候而して其舊を守りてかたく動かず新らしきハ善惡を問はずして近づけざるの弊風ハ豈能く容易小之を矯正するを得んや然れども利慾小ハ皆目ふき人々小て國の亡び外者の損害ハ更に意とせざる惡習有之實小心あるものをして憂苦おく能はざらしむる有様に御座候就てハ私の父母も此と同じき有様小て常小私を教養するも悉皆舊風なりしが偶私垂簪の友ある某志を立て一朝父母小乞ふて郷里を出て東都小在て孜々勉學せしめ忽小して其効を奏し當時天晴其業を卒へ一つの學校を負擔するの榮を得申候處近頃同人所著の小冊子を送り一ハ己の志を知らしめ又父母の迷夢を覺さしめ且私の父母の頑固をくだき私をして勉學小從事せしむるの必用なるを暗々裏小風刺せし處近來父母大に悟る所ありて遂小私をして當地小來らしむる様相成誠小私の喜び心中小充ち申候然る處私事兼て先生の御高名を敬慕致し何時ハ先生の膝下小ありて親

しく御教訓相仰ぎ度存居り候宿志今日初めて達まるとを得るかと存し未だ先生の龍光を拜せざるの前種々と心中に万百の事を浮み出し一大層氣樓を築き申候仰ぎ願くハ私日頃の衷情を察し昨日まで山間ふありて東西をも辨へがたきものをして早く其蒙を發らき給ふんことは是れ偏私の企望不堪へざる所御座候先生若し幸御許容被下ふハ獨り私の幸福のみならず在郷父親の満足此事に御座候何れ近日相伺ひ拜眉相願ひ候間其節萬々御垂示相願度失敬ふがら書中を以て御願用のみ如此に御座候早々謹白

●友を擇ぶの心要

神戸英和女學校預科二年生柴田米

朋友と何ぞや感情相通じ聲氣相應じ互に精神を語り志望を談し善を勧め惡を戒め悲喜苦樂之を共し相別るゝ一日なるも尙ほ千秋の思をふし其親密の情たるや父母兄弟と雖ども猶及ばざるが如く佛家の所謂一体分身の如き者即ち是れ眞の朋友也」若し人ふして悲喜苦樂を共するの朋友なく獨思獨考以て世に居らんと欲せば恰も衡なくして物を量るが如く豈能く其遠きを終ふ可けんや善行ありと雖ども賛する者ふく惡業を爲せども戒むる者ふく時ふ或ハ過ちふ陷り或ハ望を失し遂に志を達すること能はざるに至るべし若し夫れ有爲の精神ふく卑屈固陋にして只是れ媚を呈し勉めて人の歡心を得んとする者の如きを友とせば事益ふきのみならず却て爲めふ意外の過失を醸す事あり果して然らば寧ろ閑居獨處古人を友とまざるの勝れるに如かざる也如何とふれば感情相通じ聲氣相應じ情交日ふ密ふるふ從ひ知らず識らず其品行風采及び心志等ふ甌陶鎔鑄せらるゝ者なれば苟も有爲の志ある者宜しく良朋善友を撰み其學術ふり品行

ふり常ふ己より高等なる者を求めて日々其情交を密し務めて之と齊しからんことを望むべきハ尤余輩處世の要点なり古人曰く水ハ方圓の器不從ひ人の善惡の友ふよると宜ふる哉言也

〆一八八九年（明治二二年）一月一日發行第四号〆

雜 報

●神戸英和女學校 全校にてハ客月廿一兩日本學年第一期試験を執行されしが今日參觀せし人に聞くに孰れも天晴見事ふる出来ふりしと

●女子大學 當地の英和女學校ハ近頃大に進歩して我國女學校中一二に位する者とふりしが全校の有様より云ふも我國女學校の状況より見るも全校が一步を進めてカレッヂどふるの必要あれハ月報記者と率先して之を論じ廣く公志を求め早く全校をしてニウハム、バツサル等の女子大學にも劣らざる程の者たらしめよと或人よりの投書

●神戸英和女學校 昨年中の主ふる出来事ハ講堂新築落成（米國信徒の寄附に係るものにして六千余圓を費したり）寄宿舎及び食堂新築（之ハ食堂即ち下層ハ外人寄宿舎即ち二層三層ハ本邦人の寄附に係る其費額千五百圓不及べり）外國傳道會の設立渡邊常子の洋行等ふり全校教員ハ外人三名内國人五名外ハ助教五名生徒ハ百六十二名ふり

〆一月一日發行第四号〆

廣 告

新玉の年の初めの御壽愛度申納候

巳丑元旦 神戸英和女學校

《三月一日発行第六号》

雜 報

●英和女學校に於ける教の振興 數月前より毎夜の祈禱會をなす等振興の徵候ありしとふるが去月十七日の日曜日午前十時頃より校内の信徒諸氏を客室に集めてウイシャード夫人の勸話あり午后ハウイシャード氏夫婦全校の生徒を集めてかゝる演説をふし翌日ハウイシャード氏熱心小懇篤小主の招き小應すべきを勧められたるより蓄積したる鬱氣の一時小暴發したる如く大小主の教を求むる者教を研究せんと決心せし者起り來り廿日の水曜及び其翌日ハ長田牧師ハ同校に於て求道者を集めて其疑問小答へ或ハ勸めなどして大小働かれたる由小之れが爲め一層の振起を來し今日の所で誰でも教の事を語れば喜んで聞くと云ふの有様小て必ず多くの信者を出す小至るならんと思へると同校の或姉妹の話しふり

《三月一日発行第六号》

海 外 通 信

●左ハ米國カルトン大學に在學の渡邊常姉より記者へ送られたる書信の一節あり

去る一月一日當國小てハ日蝕有之當地にてハ四時過より蝕し始め七分方迄蝕致候然る小キヤリホルニヤ小てハ total eclipse (全蝕) の由小て彼の有名なる「ハーバード」大學並小當「カルトン」大學よりハ殊小博士たち觀察の爲同地小出張被致候然るに「ハーバード」大學の博士ハ折惡しく雲小さへぎられし爲め充分觀察出來ざりし由當地より參られたる教

授ベーン、全ピーソン、全ウイルソンハ望遠鏡二組持參致候が誠小好都合小て觀察を遂げられ候由申來り候未だ同博士さちハ歸校致されず何れ一兩日の内小ハ歸着の筈故尙委しき事ハ後日御報可致候